

雇用事例
2

特別支援学校(盲学校)の雇用支援に就労支援機関が応援

PROFILE

事業所

株式会社ベネッセスタイルケア グランダ中村橋



■所在地 / 東京都練馬区
■事業概要
高齢者介護事業(入居介護サービス、在宅介護サービス)、保育事業

支援機関

- 支援1 東京都立文京盲学校
- 支援2 東京障害者職業センター
- 支援3 板橋区障害者就労援助事業団(ハート・ワーク)

本人

脇田桃子さん(女性・20歳、障害の程度:3級)
未熟児網膜症による弱視。右目はほとんど見えず、左目は0.07程度。

経緯と雇用状況

雇用の経緯

視覚障害者雇用の検討と受け入れの準備

これまで主に高齢者入居介護サービス施設での環境整備に知的障害者を雇用してきましたが、2008年に東京都立文京盲学校から視覚障害のある脇田さんの雇用について相談を受け、視覚障害者の職場実習を検討することとなりました。

人財開発育成部の野沢さんが進路指導の教員と相談した結果、脇田さんの障害状況を考慮し、高齢者入居介護サービス施設であるグランダ中村橋を実習場所を選び、入居者の居室の水周り(トイレ、洗面台)を清掃してもらうことにしました。

グランダ中村橋で実習を受け入れるにあたっては、ホーム長の芹沢さん(当時)は、清掃用具に文字を拡大したシールを貼るほか、用途によって色を変える、館内の配置図を拡大する、スタッフに脇田さんの特性や配慮を説明するといった準備を行いました。

職場実習の実施

職場実習では、脇田さんはトイレや洗面台の清掃の手順を徐々に覚えることができました。洗面台の仕上がりが確認できるかが課題となりましたが、「スポンジで洗面ボウル全体を丁寧に洗う」、「洗面ボウルの周辺や角は手首を返してきちん

と洗う」といった目でチェックしなくても確実に清掃できる方法を脇田さんに伝えることで、グランダ中村橋が求める水準がクリアされるようになりました。職場実習の最終日に、野沢さんや芹沢ホーム長から脇田さんに評価の言葉がかけられ就職の意思について尋ねたところ、「是非お願いします」との回答があり、学校卒業後に雇用することを決定しました。

ジョブコーチ支援を利用しスピードアップ

脇田さんの採用にあたり、文京盲学校、ハート・ワーク、東京障害者職業センターとの打合せにより脇田さんが職場に定着できるための支援体制を整えてもらいました。

なお、脇田さんがより正確で効率的な作業ができるようになるために、雇用と同時に東京障害者職業センターによるジョブコーチ支援を利用することとしました。ジョブコーチ支援を通じて効率的で汚れの残らない清掃ができるようになりました。

現在の雇用状況

脇田桃子さんの雇用状況	
勤務形態	パート社員(2009年4月~)
勤務時間	9:30~16:30
勤務内容	清掃、食事メニューのイラスト作成

現在、脇田さんは居室の水周り清掃の作業スピードが上がって清掃時間が短縮されたので、共有のトイレや洗面所の清掃、入居者の食事メニューのイラスト描き等も担当しています。仕事に対する自信がついてきたためか、入居者とのやりとりも大きな声で対応できるようになっています。



▲居室洗面台の鏡を拭く脇田さん

就労支援機器&支援制度

活用した支援制度

- 特定求職者雇用開発助成金(ハローワーク)
- トライアル雇用(ハローワーク)
期間:3ヵ月間
- ジョブコーチ支援(東京障害者職業センター)
トライアル雇用時

支援の内容
1

支援機関
東京都立文京盲学校

職場実習で作業手順と問題点を確認、障害者職業センターに支援を要請

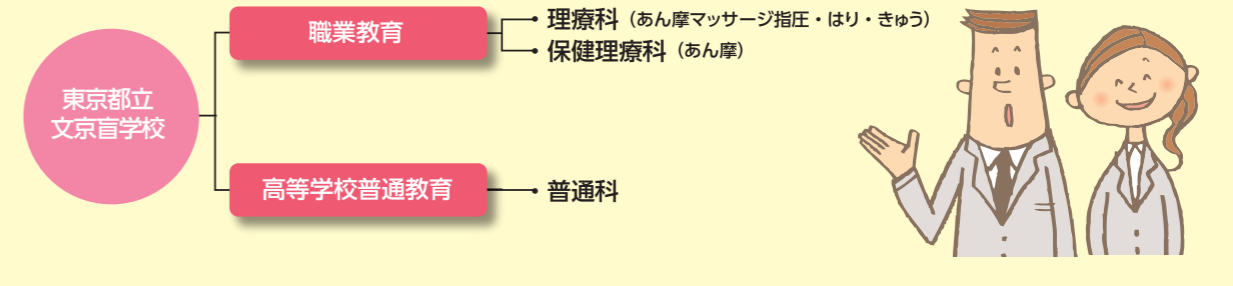


● 東京都立文京盲学校

1908年に設立した視覚障害者のための高等部の学校で、全ての視覚障害者の生徒に対し、後期中等教育を通じて障害による困難を克服する態度や習慣を養うとともに、必要な知識・技能を習得させることを目的としています。普通科(高等学校普通教育課程)、専攻科保健医療科(あん摩マッサージ指圧師免許取得のための職業教育課程)、専攻科理療科(あん摩マッサージ指圧師免許、はり師免許、きゅう師免許取得のための職業教育課程)の3科が設けられています。



▲東京都立文京盲学校



● 脇田さんの希望職種や特性に配慮した求人開拓

在校生の脇田さんの就職先を考える際、進路指導部主任の大野先生は、本人が現在持っている能力が活かせる職種を検討しました。まず本人の希望した「食品関係の職種」ということで、デザート類製造の工場で職場実習を行いました。そこでは視力の関係で作業面の制限が多く、本人の意欲を就労に結びつけるまでには至りませんでした。その後、職種を事務系に広げつつ、本人のやりたい仕事と可能な仕事を整理するため、3社の特例子会社(事務補助)の職場見学を行い、面接を受けました。

その結果、脇田さんからはオフィスワークではなく身体を動かしながら、かつ人と接する仕事への希望があったので、脇田さんが対応できる仕事を検討し、高齢者介護の周

辺業務を提案したところ、「見学してみたい」と回答がありました。

ベネッセスタイルケア人財開発育成部の野沢さんに、清掃業務で職場実習を受け入れていただくよう相談したところ、将来的には職域を拡大することも想定され、グランダ中村橋での居室の水周りの清掃を用意していただきました。

職場実習にあたって、大野先生からは、作業手順については問題ないものの、目でチェックすることへの課題が生じることが推測されるため、チェック方法を確認することが必要であること、文字の拡大や色分けによって判別が可能であること等について芹沢ホーム長に助言しました。



▲トイレの清掃をする脇田さん

支援1 東京都立文京盲学校

支援2 東京障害者職業センター

支援3 板橋区障害者就労援助事業団(ハート・ワーク)

まとめ

支援1 東京都立
文京盲学校

1 支援の内容

支援機関 東京都立文京盲学校
職場実習で作業手順と問題点を確認、障害者職業センターに支援を要請

● 職場実習による作業手順の把握

2009年2月に2週間行った職場実習では、芹沢ホーム長からの依頼により大野先生と担任の先生が付き添いし、文字を拡大したり用途によって色分けされたシールや、拡大した館内の配置図を脇田さんが効果的に使用しているか確認を行いました。

脇田さんは作業手順はスムーズに覚えることができ、より確実に作業できるよう細かな手順を加えて指導した結果、事業所から高い評価をいただきました。先生の現場での指導時間も初日は終日でしたが、2日目は半日、3日目からは定期的な訪問で十分な状況となりました。

しかし一方で、実習を通じて「勤務時間中に全ての居室の水周りを清掃することができるか」、「細かな汚れを確認することができるか」、「入居者から声をかけられるとまどろっこしいこともある脇田さんが入居者にしっかり挨拶や返事を行い、入居者からの要望等を適切にスタッフに伝えることができるか」といった課題も確認されました。



▲スタッフから指示を受ける

脇田さんの採用にあたって、野沢さんから、ホームのスタッフ指導・支援と併せて、課題解決のために手厚いサポートが必要であることからジョブコーチ支援の利用について提案があり、脇田さんがしっかりと職場に定着できるよう、東京障害者職業センターに支援を依頼しました。

一方で、脇田さんのジョブコーチ支援終了後も引き続きフォローアップを行うことや、長い目でみると生活面の支援をしていくことが必要と判断し、ハート・ワークに職場のフォローアップと生活支援について依頼しました。

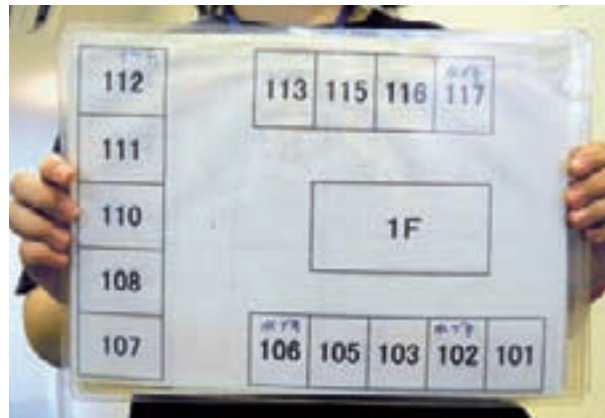


◀大野先生

● フォローアップ

脇田さんの勤務状況は良好なので、半年に1回程度、ハート・ワークの戸倉さんと共に職場訪問しており、2010年4月に芹沢ホーム長から現在の井上ホーム長に替わられた際にも訪問しています。

なお、特別支援学校における卒業生のフォローアップ期間は3年間程度が基本とされていることから、脇田さんのフォローアップは徐々にハート・ワークに移行する予定です。



▲拡大した館内配置図

職場実習を行った際の課題点

- ①勤務時間中の作業終了
- ②細かな汚れの確認
- ③入居者の要望の報告及び挨拶



支援2 東京都立
職業センター

支援3 板橋区障害者就労援助
事業団(ハート・ワーク)

まとめ

2 支援の内容

支援機関 東京障害者職業センター
ジョブコーチ支援で作業の質・効率が向上し、トライアル雇用終了後も継続雇用が決定



● 地域障害者職業センターとは？

独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構が運営する都道府県における職業リハビリテーションの中核として、関係機関と緊密な連携を図り、障害者に対して専門的な職業リハビリテーションサービスを行うとともに、事業主に対して雇用管理に関する相談・援助を行っています。また地域の関係機関に対し職業リハビリテーションに関する助言・援助を行っています。



▲東京障害者職業センター

● ジョブコーチ支援開始に向けた打合せ

文京盲学校の大野先生からジョブコーチ支援の依頼を受け、採用前に脇田さん、保護者、大野先生、戸倉さんに集まっていただき、今後の支援について打合せを行いました。

担当の障害者職業カウンセラーから、脇田さんに職場実習での様子やジョブコーチに依頼したいことを確認したところ、スタッフが付かないので不安であること、入居者とのコミュニケーションの取り方や臨機応変な対応、汚れの見落としがあった時にどのようにすれば良いかについて支援して欲しいといった要望がありました。

また支援開始前に障害者職業カウンセラーと担当ジョブコーチが職場を訪問し野沢さん、芹沢ホーム長と打合せを行い、施設や脇田さんが担当する作業、また脇田さんの職場実習の状況について説明を聞きました。なお、芹沢ホーム長から全室分のトイレと洗面台の清掃が対応できるスピードと正確さが身に付くよう支援の要請がありました。

ジョブコーチ支援期間は4月～6月の3か月間でトライアル雇用と併せて実施しました。

きやすいようスタッフと相談し、直接鏡にクリーナーを吹き付けタオルで拭く方法に変更しました。

4月中旬には、脇田さんは作業スピードが速くなり全室対応できるようになったので、残りの時間は新聞折り、夕食のメニュー書き、食堂の机をアルコールで拭く作業を行うこととしました。

ジョブコーチ支援終了後、7月末に脇田さん、保護者、芹沢ホーム長、大野先生、戸倉さんに参集いただき打合せを行いました。勤務状況については問題なく、無遅刻無欠勤です。芹沢ホーム長からは脇田さんの報告、連絡、相談や真面目な態度を高く評価していることについて回答がありました。また、スタッフからだけではなく入居者からも温かい声かけがある等職場内で脇田さんへの理解が随所に見られることから、脇田さんの仕事に対する意欲が高まっていることについても話していただき、引き続きグランド中村橋で雇用していただくこととなりました。フォローアップについては、文京盲学校とハート・ワークに依頼しました。

● ジョブコーチ支援を開始

ジョブコーチは週2回程度支援に入りました。初回は終日確認と支援を行いました。2回目以降は、午前のみあるいは午後みの時間で支援しました。

初日の脇田さんの清掃については、作業工程は覚えていましたが、入室の際の声かけが小さいことや、動作がゆっくりしている等の課題が見られました。脇田さんが気づきにくい鏡、特に鏡の下部については回数を多く拭くようアドバイスしたほか、通勤路とタイムカードの使用方法について確認しました。

鏡拭きについては、特に脇田さんが汚れに気づきにくい作業だったので、芹沢ホーム長と相談し、できるだけ汚れが残らない清掃方法を考えました。当初はアクリルタワシに水を付けて拭き、仕上げにペーパーを使用する方法で行いましたが、その後、脇田さんが拭

作業手順の変更

変更前	変更後
①手袋を着用する。	①トイレトーパーを三角に折る。
②便器に洗剤をまく。	②手袋を着用する。
③クリーナーをペーパーに吹きつけて洗面台の鏡をふく。	③便器に洗剤をまく。
④洗面台の周りの中をふく。	④鏡にクリーナーを吹き付ける。
⑤蛇口をふく。	⑤布タオルで鏡をふき取る。 (鏡の下部分(約1/3)は丁寧にふく)
⑥乾いたタオルで仕上げる。	⑥洗面台の品物を移動し、クリーナーを吹き付けたペーパーで奥から手前にふく。
⑦便器内をトイレブラシでこする。	⑦蛇口をふく。
⑧ぬれたタオルで手すりをふく。	⑧洗剤をつけたスポンジで洗面台の中を洗う。
⑨便座、床をふく。	⑨ペーパーで蛇口・洗面台の中の水滴をふき取る。
⑩トイレトーパーをチェックし交換する。	⑩便器内をトイレブラシでこする。
	⑪クリーナーシートで手すり⇒洗浄ボタン⇒ペーパーホルダー⇒タンクの上⇒便器のふた(内側～外側)⇒便器の上・下⇒便器の下回りの順にふく。

支援1 東京都立
文京盲学校

支援1 東京都立
文京盲学校

支援の内容
3

支援機関
板橋区障害者就労援助
事業団(ハート・ワーク)

仕事の状況だけでなく生活面についても
きめ細やかにフォローアップ



▲板橋区障害者就労援助事業団(ハート・ワーク)



●ハート・ワーク

1995年7月に開所。板橋区に住む障害者が、職業に就き社会参加できるよう就労支援事業を行うほか、障害者雇用を進める事業所に対し、職務内容にあった求職者を紹介しています。

1. 相談
障害者が就職活動を円滑に行えるよう、ハローワーク等と協力し就労や職業生活に関する相談を行います。
2. 指導・訓練
知的障害者親の会(ティールーム)に委託し、就労を希望する知的障害者に対する準備訓練(就労前訓練)や福祉作業所・特別支援学校等から体験実習生を受け入れています。
3. 無料職業紹介
4. 職場適応援助員(ジョブコーチ)派遣
5. 定着指導
6. その他、機関誌「ハート・ワークだより」発行、余暇活動交流会「ひまわり」を開催

2009年3月に、脇田さんと大野先生が来所した時、精神保健福祉士の戸倉さんが対応しました。本人から職場実習を通じて職場から高い評価を得られ就職が決まったことや現在の家庭状況等話をしてもらいました。



勤務初日に東京障害者職業センター、文京盲学校とともに職場 ▲精神保健福祉士・戸倉さんを訪問し、ハート・ワークはジョブコーチ支援が終了した後のフォローアップを担当することとしました。

支援の内容は、文京盲学校とともに定期的に職場を訪問し現状について確認するとともに、本人や保護者と家庭での状況について確認や相談を行っています。現在は職場、家庭とも特に問題は無いようです。

直近のフォローアップにおいては、脇田さんは清掃業務にじっくり取り組むようになり、全ての作業が短い勤務時間内で対応することが難しくなっているため、新たな支援方法について、井上ホーム長との相談を行いました。



▲井上ホーム長から状況を確認する大野先生、戸倉さん

*インタビュー

支援機関の連携がよい形で職場定着に繋がっています。



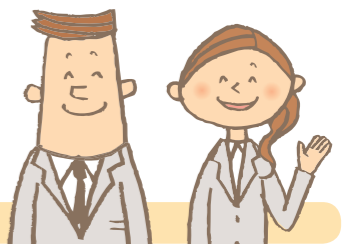
人財開発育成部
障がい者雇用採用担当
野沢悠介さん

今回の脇田さんの採用・定着支援では多くの関係機関にご協力をいただいています。文京盲学校からは、脇田さんの性格や障害特性等、受け入れにあたって必要な情報を教えていただくことで、事前に疑問点や対応・配慮が必要な部分を把握することができました。また、脇田さんにとってよく知っている先生が採用後も関わってくれることが安心感に繋がっているのではないかと思います。ご家族との窓口になっていただいたことで、受け入れのための準備がスムーズに進みました。

東京障害者職業センターからは、視覚障害者の受け入れノウハウが決して十分とは言えない中で、技術面や指導方法について具体的なアドバイスをいただきました。導入段階のジョブコーチ支援により現場スタッフの受け入れ時の負担を軽減することができました。

板橋区障害者就労援助事業団(ハート・ワーク)は、採用後も定期的な支援の窓口となっていただくことで、課題発生時に相談やサポートをいただけるという安心感を持つことができます。

障害をお持ちの方を受け入れる私たち企業側としては、今回のケースのように様々な支援機関の方々が協力し、より緊密に連携しながら取り組む体制を作ることができれば、非常にありがたく感じますし、より多くの雇用につながっていくのではと考えています。



支援経緯早見表

関係者	事業所	支援機関			本人
時期	株式会社ベネッセスタイルケア	① 東京都立文京盲学校	② 東京障害者職業センター	③ 板橋区障害者就労援助事業団(ハート・ワーク)	脇田桃子さん
ニーズ					事務ではなく、身体を動かす仕事がしたい
雇用前	視覚障害者の受け入れ	相談	清掃の職場実習を依頼		
	作業内容の検討 ・トイレ及び洗面台の清掃に決定				
	配慮事項を検討	実施への支援・アドバイス			
職場実習	職場実習の受け入れ	作業状況の確認・支援			職場実習の参加
採用決定					
雇用準備期	支援機関の連携により受け入れ準備がスムーズに進みました。	ジョブコーチ支援を依頼 職業生活支援を依頼	相談	相談	打ち合わせに参加 ・保護者も同席 ・懸案事項の報告
トライアル雇用期間	ジョブコーチのサポートで受け入れ時の負担が軽減できました。	職場環境・仕事内容・各機関の役割の確認 ・情報の共有化	ジョブコーチ支援 ・清掃精度と速度向上を支援 ・コミュニケーションを支援		
雇用後	職務の拡大を検討 ・新聞折り ・メニュー表作成 ・勤務時間の延長	勤務状況の確認	フォローアップ	勤務状況の確認	職務の拡大 ・メニュー表のイラストを担当 ・共有スペースの清掃

支援のコーディネートを担った機関(盲学校) ← コーディネートの内容 ← 経緯

支援のポイントと評価

- ※ 特別支援学校(盲学校)において知的障害者の雇用経験のある事業所に対し、清掃作業に弱視の視覚障害者雇用について提案するとともに、障害特性を補う作業手順等について助言できたこと。
- ※ 職場実習を通して課題が生じた場合には具体的な対応策が提供できるサポートができたこと。
- ※ 作業遂行力の向上や採用後の職業生活面でのフォローの必要性から、特別支援学校(盲学校)がコーディネートを担い、ジョブコーチ支援、フォローアップが行われたこと。

まとめ

まとめ